

平成28年6月9日
国立大学法人千葉大学

学問の垣根を越えて「移民」について議論 — 千葉大学国際教養学部 開設記念研究シンポジウム — 「流動化する社会と移民たちの戦略」 6月29日(水)

国立大学法人千葉大学（学長：徳久剛史）は、本年4月の国際教養学部開設を記念し、移民（国境を超える人の移動）をテーマに移動研究及びグローバルイゼーション研究の専門家を招いて、学問的課題について考える研究シンポジウムを開催します。

今年5月に政府は中東の難民支援策の一環として、2017年から5年間で最大150人のシリア難民の若者を留学生として受け入れることを決めました。日本において、移民はすでにごく身近で日常的なテーマなのです。たとえば、留学、海外研修、駐在、帰国子女、国際結婚なども「移民」の一形態と捉えることができます。より良い生活を求める移民たちは、流動化する社会の中でどのような戦略を講じてきたのか。歴史学・社会学・人類学といった様々な分野の専門家らが議論します。

シンポジウムの概要

1. 日時 2016年6月29日（水）13:00～17:00（受付12:00）
2. 会場 千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館大ホール
3. 内容
 - 挨拶 小澤 弘明（国際教養学部長、副学長）

■基調講演

伊豫谷 登士翁（いよたにとしお）氏（一橋大学名誉教授）

「国境を超える人の移動を考える — 歴史の揺らぎと再編」

移動を論じることで、人の移動を自律的かつ主体的な動きとして捉え返し、近代における知の枠組みを転換あるいは組み替える試みを考察します。

■パネルディスカッション

「流動化する社会と移民たちの戦略 — 教育・キャリア・生活」

パネリスト

- ・見城 悌治（歴史学）「近現代日中関係史における中国留学生の役割」
- ・周 飛帆（教育社会学）「動詞としての移民」
- ・五十嵐 洋己（教育社会学）「教育的休暇—日本人富裕層家族のトランスナショナルな教育・家族戦略」
- ・小林 聡子（言語人類学）「駐米日本人高校生と教育空間—民族アイデンティティの言説的・空間的位置付け」
- ・佐々木 綾子（社会福祉学）「グローバル社会のウェルビーイング—インドネシア人介護福祉士のキャリアプランから」

【参加申込み】

kikaku-cla@chiba-u.jp

参加は無料です。会場準備の都合上、できるだけ事前の参加申込みをお願いします（当日参加も可）。

件名を「移民シンポ参加申込み」とし、お名前、ご所属、連絡先（メールアドレス）等を上記アドレス宛にお送りください。



伊豫谷 登士翁 氏

【アクセス】

- 京成みどり台駅（徒歩5分）

改札を出て左に直進し、3つ目の信号の先が正門。

- JR西千葉駅（徒歩7分）

西千葉駅北口を出て、バスロータリーを越えると南門。南門から入らず、そのまま5分直進すると正門。



本件に関するお問い合わせ・取材のお申込み
千葉大学国際教養学部（担当：福田友子）
Tel:043-290-3607 Fax:043-290-3608
email : fukuda@faculty.chiba-u.jp